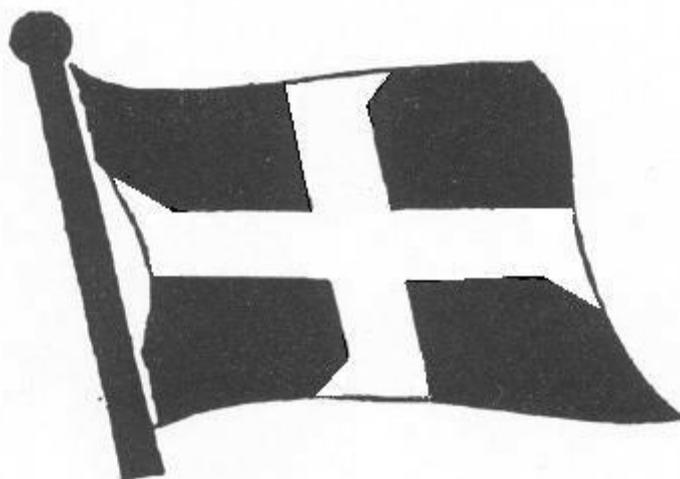


蒼穹 NEWS

NO.2

関西インカレ総括号

平成 28 年 5 月 26 日発行



～目次～

- 1 主将挨拶、監督挨拶
- 2 関西インカレ結果
- 3 関西インカレ詳細
- 4 新入部員紹介

1. 主将挨拶・監督挨拶

主将挨拶

先日行われました関西インカレで、男子は41点を獲得し、総合8位という結果でした。目標は総合6位であったため、目標達成はなりませんでしたが、チームとして大きな成長が見られた対校戦となりました。個人では、自らの大会新を更新した山西は言わずもがな、2種目で大量得点を稼いだ岡野、大きな飛躍を見せた柴田など、学部生を中心に、ランキング外から得点をもぎ取ってくる選手も多く出てきてくれました。女子では高野が個人では最高記録となる5点を獲得するなど、七大戦に向けて期待できる姿を見せてくれました。

これらの成績が収められたのも、非常に多くの部員が関西インカレに心を向け、行動につなげてくれたおかげだと思います。これまで言い続けてきた「全員で戦う」というのが、ようやく形になりはじめたと思うので、これから伊勢予選、七大戦に向けて一層努力して参ります。

最後となりましたが、計5日間の今大会では蒼穹会の皆様に多大なご声援をいただきました。部員一同心より感謝しております。今後とも変わらぬご支援、ご声援をよろしくお願い致します。

京都大学陸上競技部主将 足立 涼

監督挨拶

4月20日のハーフマラソンから始まった関西インカレが終了しました。今大会では41点を獲得し、8位という結果でした。チーム目標の6位には届きませんでしたが、なんとか一部残留を果たすことができました。特に4回生が粘り強いパフォーマンスを見せてくれたことがこの結果につながったと考えています。岡野(4)の1500mと3000mSCでの入賞、400mの紀平(4)のランキングを覆しての得点、稲垣(4)の熱い走りの生んだ1点には目を見張るものがありました。昨年4回生が抜ければチーム事情は厳しいものと申し上げましたが、厳しい冬を越え、現4回生が本当に立派に強くなりました。今大会での3回生以下の得点は10000mWの山西(3)と5000m、ハーフマラソンの柴田(3)の2人のみです。昨年同様3回生以下には危機感を持ちこれからも精進してもらいたいと思っています。

さて、全日本大学駅伝予選会までおよそ1ヶ月となりました。昨年はわずかの差で本大会出場を逃しました。昨年の悔しさを晴らすため長距離部員中心にチーム一丸となってまいります。最後になりましたが、蒼穹会の皆様のご声援がなければ5日間という長丁場の試合を戦い抜くことはできなかったと思います。連日、応援に駆けつけていただいた皆様にご場を借りて厚く御礼申し上げます。

京都大学陸上競技部監督 西村優汰

2. 関西インカレ結果

第93回関西学生陸上競技選手権大会

男子一部総合成績

1位	関西学院大学	206.5点
2位	立命館大学	111点
3位	同志社大学	93.5点
4位	京都産業大学	87点
5位	大阪体育大学	81.75点
6位	大阪教育大学	60点
7位	近畿大学	43点
8位	京都大学	41点
9位	関西大学	40.25点
10位	京都教育大学	39点

男子一部トラックの部

1位	関西学院大学	137.5点
2位	同志社大学	64点
3位	立命館大学	51点

男子二部総合得点

1位	天理大学	160点
2位	大阪大学	136点
3位	摂南大学	98.5点

男子一部フィールドの部

1位	大阪体育大学	60.75点
2位	関西学院大学	51点
3位	立命館大学	50点

女子総合得点

1位	大阪成蹊大学	121点
2位	立命館大学	113点
3位	武庫川女子大学	103点

男子一部混成の部

1位	大阪教育大学	16点
2位	関西学院大学	11点
3位	びわスポ大学	6点

3.関西インカレ詳細

第一日目 4月20日(水)

(長居周回コース)

ハーフマラソン

1位	寺西 雅俊	京都産業大	1:04:21(NGR)
2位	奥村 杏平	京都産業大	1:05:30
3位	榎本 剛史	立命館大	1:05:42
4位	坂東 剛	関西学院大	1:06:34
5位	西川 諒	立命館大	1:06:56
6位	岡崎 竜也	関西大	1:07:19
7位	本藤 光	関西学院大	1:07:25
8位	柴田 裕平	京都大	1:07:28
13位	下迫田 啓太	京都大	1:08:31
19位	新田 一樹	京都大	1:10:54

4月の陽気の中、関西インカレ最初の種目となるハーフマラソンには新田、下迫田、柴田が出場した。レースは序盤大きな先頭集団を形成するが、徐々にペースが上がってくると新田、下迫田は集団からこぼれてしまう。いずれも中盤以降は苦しい走りとなってしまったが、下迫田は持てる力をしっかりと出し切り13位と健闘した。レースは中盤以降、京産大・寺西が大会記録ペースで独走し、関学・立命勢がそれを追う展開。柴田は中盤以降9位集団で粘りの走りを見せ、ラスト1周、前からこぼれ落ちる選手を拾って最後の力を振り絞り8位を死守。個人の目標の6位には届かなかったが、総合6位に向け大きな1点をもぎ取った。

第二日目 5月12日(木)

ヤンマースタジアム長居

女子走高跳決勝

1位	秦 澄美鈴 (武庫川女大 2)	1.72
2位	辻 愛 (甲南大 3)	1.72
3位	岩下 美桜 (大教大 3)	1.69
14位	林 玲美 (京都大 2)	1.60

CB 蒼穹新

女子走高跳には林が出場した。1.50は1回目、1.55は2回目の跳躍でクリアした。1.60はバーを揺らしてしまったものの、2回目でクリアした。続く1.65では自身の目標であるPB(1.63)の更新にも期待がかかった。三本とも高さの出る跳躍だったが惜しいところで体がバーに当たってしまい、1.65まであと1歩及ばなかった。しかしこの記録は大学ベストであるとともに、蒼穹新記録でもある。今後、自身の打ち立てた蒼穹記録をさらに更新して、七大戦での二連覇や来年の関カレでの得点とさらなる活躍が期待される。(小野)

110mH 予選 (4・3+4)

佐藤 優斗(M1)

1組6着 15.19 -0.6 PB

京都インカレで追い風参考ながら好タイ

ムを出した佐藤は、今回の試合での自己ベスト更新が期待された。スタートダッシュが上手くはまり、前半 5 台目まで周囲の強豪選手らと並んで走ったが、それ以降は内側の選手に離されてしまった。しかし隣のレーンの選手と良い争いを見せ、持ち味である大きなストライドと素早いリード足の運びで最後まで前の選手に食らいつき、見事自己ベストを更新した。(完山)

400m 予選 (4-1+4)

庄司 真 (M1) 2組 7着 50.57

紀平 直人 (4) 4組 1着 48.32 Q

PB

2組にベテランの庄司が登場。序盤から飛ばしすぎず抑えすぎず、手堅いレース展開を見せるも後半に失速、徐々に離される。ケガによる仕上がりの遅れは否めないか。無念の予選敗退となった。4組に登場した紀平は2レーンという内側からのスタート。前を行く選手を追い前半から軽快に飛ばすが前との差がなかなか縮まらない。しかし各選手がバテ始めるコーナー開けからギリギリと順位を上げ、ラスト 50m 付近で先頭に立つ。魂の追い上げで見事予選通過を果たした。(平田)

女子 1500m 予選 (3-3+3)

増田 茄也子 (2) 1組 9着 4.52.19

女子 1500m はスタート直後から、立命館

の選手を先頭に集団を形成する。増田は1周目を 73 秒で通過し、集団が崩れていく。増田は前方集団最後尾に付きながら、2周目を 2分 30 秒で通過。ここで前の選手と 10mほど差がつく。少しずつ差が広がりながらも3周目を 3分 51 秒で通過。先頭集団のスパート合戦には絡めなかったものの、4分 52 秒でゴールした。(川岸)

1500m 予選 (2-4+4)

岡野 颯斗 (4) 1組 3着 4.01.54 Q

足立 涼 (4) 2組 6着 3.59.36 q

予選には1組に岡野、2組に足立が出場した。1組目は岡野がスタートから先頭に出る。1周目 64 秒、2周目 68 秒とゆったりとしたペースだが、3周目通過後に各選手激しいスパートを見せ、集団後方では転倒者も出る中、岡野は三着で決勝進出を決めた。2組目では、スタート直後から足立が先頭で集団を引っ張る。1周目 63 秒、2周目 66 秒で通過すると、集団が縮まり足立はうまく先頭に出られない。3周目通過後、スパート合戦の中で足立は粘り切り 6 位でゴール。プラスで決勝進出を決めた。(山下拓)

100m 予選 (4-3+4)

山木田 雅 (4) 3組 7着 10.94 +0.6 CB

石田 真也 (M1) 4組 1着 10.64 -0.5 Q

男子 100m には石田 (M1) と山木田 (4) が出場した。石田はしばらく故障していたが、その不安を感じさせない走りで予選を 1 位通過した。タイムも 10 秒 64 と良好であった。山木田も短短パートチーフとしての意地を見せ、10 秒 94 の大学ベストを出すも、予選通過はならなかった。(長谷川)

ハンマー投決勝

- 1 位 金原 裕太 (京産大 4) 62m51
- 2 位 久家 辰也 (京産大 3) 59m86
- 3 位 森 大輝 (大体大 3) 58m97
- 15 位 浅野 智司 (京都大 3) 38m60

男子ハンマー投には 3 回生の浅野が出場した。例年のトップ 8 ラインは 54m 付近とハイレベルな試合ではあるが、この大舞台での自己ベスト更新が期待される試合であった。1 投目は 34m36。関西インカレ 1 ヶ月前に 3 回転から 4 回転へ投げ方を変更して臨んだために技術的不安定さがあり、さらには緊張もあってか普段グラウンドでできている動きが全くできていなかった。2 投目は 37m38。3 投目は 38m60。1 投目から徐々に修正して記録を伸ばしていったが、ここで競技終了。3 投目の 38m60 の投擲を 1 投目にできていれば全体としての結果は大きく変わっていたであろうが、前半の 3 投で結果を残すことの難しさ、さらには 1 投目で結果を残すことの難しさを痛感した試合であった。これからは夏に向けて 4 回転を磨き、七大戦での優勝に期待したい。(中

山)

1500m 決勝

- 1 位 森谷 公亮 (大教大 3) 4.01.20
- 2 位 神谷 天地 (関学大 3) 4.01.54
- 3 位 岡野 颯斗 (京都大 4) 4.02.75
- 8 位 足立 涼 (京都大 4) 4.04.12

決勝には、岡野、足立がそろって進出した。レースは 1 周目 71 秒、2 周目 67 秒と昨年同様スローペースで、各選手が様子を伺う展開になった。1000m 付近で、岡野、足立が積極的に仕掛けて、先頭に出る。それに従い、集団のペースも一気に上がる。ラスト 1 周で他選手がスパートをかけると、岡野もこれについていき、ラストスパートで着差ありの 3 位、見事に表彰台を決めた。足立はスパートをかけた先頭の選手に徐々に離されてしまうが、最後まで粘り切り、得点ラインの 8 位を死守した。

(山下拓)



入賞を果たした主将足立(右)と岡野(左)

女子 4×100mR 予選 (4-1+4)

金澤ー完山ー山中ー坂上

4組 6着 51.66

1走の金澤はスムーズに加速し、ほかのチームと少し遅れるくらいで2走完山へバトンを渡した。ここでのバトンはかなり詰まってしまった。2走完山は、思うように加速できず他校のエースにおいていかれてしまう。3走山中とのバトンも詰まってしまった。3走山中が懸命に前のチームを追うも、4走坂上にバトンをつなぐ時点で上位チームとは大きく差を離されてしまっていた。個人の走力の差を見せつけられるレースとなってしまった。(黒瀬)

4×100mR 予選 (2-3+2)

安藤ー石田ー山木田ー土屋

1組 5着 40.91

男子 4×100m リレー予選は安藤、石田、山木田、土屋の走順。一走は今季 100m で PB を更新し勢いに乗る安藤、長居スタジアムの雰囲気臆する事なく力に変えて快走を見せる。二走は経験豊富な石田が走る。スムーズに加速してバトンを受け取り、エースの集まるバックストレートを駆け抜ける。しかし、ここで三走の山木田へのバトンパスがつかまってしまい京大チームは苦しい展開となる。三走山木田は短短パートチーフとしてパートを引っ張る存在。苦しい展開からも粘りの走りを見せる。四走は部員からの信頼が絶大な土屋。予選突破を目指し懸命に走った

がゴールは組 5 着となった。タイムは 40.91。惜しくも順位あと一つで予選突破はならず、悔しい結果となった。(川井)

十種競技(前半)

澤 薫 (京都大 3) 3250 (暫定 13 位)

100m 11.10 -0.7

走幅跳 6.80 +1.0

砲丸投 8.79 PB

走高跳 1.65 PB

400m 51.93

第 2 日、第 3 日を通して行われる男子十種競技には澤が出場した。トラック&フィールドの部では最初の種目となる 100m や得意の走幅跳では、持ち味のスピードを活かして高得点をあげた。一方、苦手な砲丸投では自己ベストを大きく上回る投擲を見せた。走高跳では自己ベストの 1m65 まではミスなく跳んだものの 1m70 では惜しくも 3 回の失敗を重ねた。十種競技 1 日目の最終種目となる 400m では疲労も見える中、ベストではないものの、見事な走りを見せた。1 日目は得意種目を中心に得点を稼ぎ、目標としていた 6100 点を期待させる結果となった。(五十嵐)

対校得点(二日目終了時点)

男子一部

1位 京都産業大学 40点

2位 関西学院大学 19点

3位 立命館大学 16点

5位 京都大学 8点

女子総合得点

1位 立命館大学 26点

2位 京都産業大学 17点

3位 大阪体育大学 16点

京都大学 0点

第三日目 5月13日(金)

100m 準決勝 (2-4)

石田 真也 (京都大 M1)

1組6着 10.72 +0.1

準決勝では、石田は良いスタートを切ったものの、後半周りの選手より伸びが足らず、決勝に進出することはかなわなかった。他大学のレベルも上がっており、関西の上位で勝負することの厳しさを感じた。(長谷川)

400m 決勝

1位 高橋 祐満 (近畿大 3) 46.92

2位 大西 絢也 (関学大 3) 47.14

3位 芳村 健斗 (関学大 2) 47.18

7位 紀平 直人 (京都大 4) 47.82

予選通過の勢いそのままに、格上相手に勝

機を見出すならこれしかない」と序盤からスピードを上げる。200m付近でやや力んでしまったものの、3位くらいでコーナーを抜ける。しかしここからランキング上位陣の猛追を受け、反対に紀平のスピードは落ちる。最後の力を振り絞り、7位でゴール。本人は改善の余地ありのレースとしているが、ベストを大きく更新した上、8位に0.01秒差で競り勝って2点を取る大活躍を見せ、京大に大きく貢献した。(平田)



見事 47秒台を出し得点をもたらした紀平

三段跳決勝

1位 高橋 佑悟(立命館大 3) 15m59 +0.0

2位 宮田 弘輝(関西大 4) 15m48 -0.3

3位 斎田 将之介(関学大 4) 15m35 +0.7

8位 渡辺 祥 (京都大 M1) 15m19 -2.0

16位 松下 隼人(京都大 4) 14m12 +0.0

山岡 隆央(京都大 M1) NM

トップ 8 が決まった時点で 8 名全員が 15m 以上というハイレベルな戦いとなった。その中で渡辺(M1)は 1 本目で 15m19 の記録を残し、7 位で 4 本目を迎えた。惜しくもファールが続き、結果としては 8 位であったが貴重な 1 点をもたらしてくれた。山岡(M1)は踏み切り位置がうまく合わせられず 3 本ファールに終わった。4 回生の松下は踵の痛みが懸念されたものの、3 本目で自己ベストに近い 14m12 の跳躍を見せてくれた。(伊東)

4×400mR 予選

紀平－新村－神先－庄司

2 組 6 着 3.16.31

去年に引き続き決勝進出が期待されていたが、今年はレース前から不安要素が多かった。1 走の紀平は直前の 400m 決勝で快走を見せたものの疲労はピークにきており、4 走の庄司は怪我明けのため好調とは程遠い状態だった。また去年 2 走だった土屋は不調のため、代わりに 2 回生の神先が 3 走に入った。レースが始まり、1 走の紀平はやはり疲労のためか出遅れてしまい、最下位付近で 2 走の新村にバトンパス。新村は力強い走りで 1 つ前の 5 位の龍谷大学に迫るも追い抜くことはできず、3 走の神先につないだ。神先は前半の積極的な走りが持ち味だったが、少し抑え気味に入ってしまう、そのまま 6 位で 4 走の庄司にバトンが渡った。庄司は調子が良くないながらも全力で 5 位の龍谷大学にくらいついたが、結

局レース序盤からの悪い流れを断ち切れず 6 位でゴールした。残念ながら、去年に引き続きの決勝進出はならなかった。(小林)

5000m 決勝

- 1 位 浜田 泰輔 (関学大 3) 14.48.17
- 2 位 村武 慎平 (立命館大 3) 14.48.80
- 3 位 柴田 裕平 (京都大 2) 14.48.81
- 19 位 新田 一樹 (京都大 5) 15.31.06

尾崎 拓 (京都大 3) DNS

男子 5000m には柴田、新田が出場した。尾崎は故障明けのため棄権。レースは 1 キロ 3 分を超えるスローペースで進み、柴田と新田は集団後方につける。3000m で集団から数人飛び出すとペースが一気に上がり、集団は縦長に。新田は 4000m 手前で踏ん張りきれず失速するが、柴田は徐々に前に上がり、ラスト 2 週のところで先頭に出るとさらにペースを上げる。それからは浜田、村武、柴田の三つ巴。ラスト 1 キロは 2 分 40 秒を切るハイペースであった。柴田は村武には僅差で及ばなかったものの、並みいる強豪を抑え見事に表彰台を勝ち取った。京大長距離のエースとしての柴田の活躍は、ハーフでの得点と同様にチームの大きな追い風となった。新田は今回振るわない結果であったが、練習は順調に積めてきており、今後の活躍が期待される。尾崎も既にポイント練習に復帰し、伊勢予選に上手く合わせられそうである。(谷口)



粘りの走りラストスパートで3位になり
ハーフに続き得点した柴田

十種競技(後半)

1位	森本 公人 (大教大 M1)	7111
2位	下司 剛久 (関学大 4)	7003
3位	黒田 貴稔 (びわスポ大 3)	6958
12位	澤 薫 (京都大 3)	6168 PB
110mH	16.74 (-0.7)	PB
円盤投	24.73	
棒高跳	4.60	
やり投	42m05	PB
1500m	4.46.11	PB

十種競技 2 日目には前日に引き続き澤が
出場した。この日最初の種目となる
110mH では昨日に引き続きスピードを

活かして自己ベストとなる走りを見せた。
続く円盤投ではベストに近い投擲で着実に
点数を伸ばした。得意種目の棒高跳では
実力を遺憾無く発揮し大量得点した。9
種目目のやり投では自己ベストを更新す
る投擲を見せた。最終種目の 1500m では
気迫のこもった粘り強い走りで自己ベス
トを出し、2 日間にわたる競技を終えた。
総合得点としては自己ベストを大きく更
新し、目標としていた 6100 点を越えた。
2 日間精一杯戦い抜いたその姿は見る者
を感動させ、チームに勢いをもたらした。
また、来年度の関西インカレでは得点が
大いに期待できるので、これからの澤の
活躍に目が離せない。(五十嵐)

対校得点 (三日目終了時点)

男子一部総合得点

1位	関西学院大学	97.5 点
2位	立命館大学	68 点
3位	京都産業大学	57 点
7位	京都大学	17 点

女子総合得点

1位	立命館大学	53 点
2位	大阪成蹊大学	47 点
3位	武庫川女子大学	43 点
	京都大学	0 点

第四日目 5月14日 (土)

女子円盤投決勝

- 1位 吉留 明夏里 (立命館大 3) 44m82
2位 清水 麻衣 (びわ学大 2) 44m49
3位 石川 京奈 (天理大 1) 41m70
11位 横山 優花 (京都大 2) 35m58

女子円盤投には横山が出場した。横山は5月初めの奈良県選手権で36m65のPBを更新しており、その勢いで関西インカレでは西日本インカレの標準切り、更に38m以上の記録を期待されていた。調子は悪くなさそうだったが力んでいる様子を感じられた。3投目はファールとなっしまい、記録をのばすことができなかった。トップエイト進出ラインも36m79cmと届かない記録ではなかったが、関西インカレという舞台の雰囲気や周りのレベルの高さに圧倒された結果となった。まだまだ記録が伸びることが予想されるので西日本インカレの標準切りや七大戦に期待したい。(澤)



蒼穹記録保持者の横山

200m 予選 (4-3+4)

- 土屋 佑太 (4) 1組 6着 21.91+0.2 q
紀平 直人 (4) 2組 4着 21.87+0.5 q

1組に土屋、2組に紀平が出場した。1組の土屋はウォーミングアップの際に怪我が再発し、その影響もあってか得意の後半で周りの選手を追い込むことができずに6着。2組の紀平は前日の400mで大幅に自己ベストを更新し好調であったが、マイルを含めて400mを3本走った疲労の影響か、前半で遅れをとり後半追い込むも4着。2人とも3着に入ることはできなかったものの、タイムで拾われて準決勝進出を果たした。(安藤)

女子 800m 予選 (6-3+6)

- 坂上 小百合 (4) 4組 6着 2.26.82
岸本 絵理 (3) 5組 3着 2.18.60

Q PB

女子 800m 予選には、坂上と岸本が出場した。坂上は、1周目は先頭集団に付くも2周目で前との差が開いてしまう。しかし大きくペースを落とすことはなく、組6着でレースを終えた。岸本はスタートから先頭集団に付け、4番手でレースを進める。残り200m地点で前の選手を抜き、3番手に躍り出るとそのままペースを落とさずに組3着でゴール。見事準決勝進出を決め、タイムも自己ベストの2'18"60という素晴らしいレースであった。(山川)

800m 予選 (3-2+2)

足立 涼 (4) 1組 7着 1.56.64

中井 一宏 (M2) 3組 5着 1.55.50

男子 800m には中井、足立が出場した。主将として関西インカレに挑んだ足立は専門種目ではないながらも、1点でも多くという思いを持っての出場。レースでは積極的に先頭で走り、ハイペースなレースで決勝に進出することを図った。しかし、バックストレートでの後続の追い上げに対応しきれず予選敗退。2種目で得点することは叶わなかった。また、今大会に向けて秋から練習を積んできた中井は粘りの走りをした。500m 過ぎで後ろから抜かれるも、前に食らいつき、最後まで競り合いながら 5着でゴール。目標の決勝進出は届かなかったが、シーズンベストで後輩達に戦う姿勢をみせた。(田中達)

400mH 予選 (4-1+4)

新村 航輝 (4) 2組 2着 52.44 PB

男子 400mH には新村が出場した。前半から攻めの走りをした。4台目から 5台目のハードルでは 15 歩でも足が詰まるくらいの攻めのレースをしていた。終盤 7台目のハードルまでは 2番手だったが、ラストの直線で 3番手に抜かされるも、ラストのハードルを抜けてから抜き返し組 2着を獲得した。京都インカレでのラストのハードリングの失敗を修正して最後までミスなく走り切り、自己ベストとであったが惜しくも決勝には進出できなかった。(黒瀬)

走幅跳決勝

1位 遠藤 泰司(立命館 1) 7.64 +0.0

2位 足達 一馬(関学大 1) 7.52 +2.3

3位 青山 耕也(立命館 4) 7.35 +1.7

4位 渡辺 祥(京都大 M1) 7.33 +1.1

8位 西村 優汰(京都大 M2) 7.20 +0.0

24位 石田 真也(京都大 M1) 6.55 +0.0

この関西インカレでは実力のある西村 (M2)、渡辺 (M1)、石田 (M1) の 3人が出場した。まず 2 回目の跳躍で渡辺が 7m33 を跳び着実に決勝進出。しかし監督の西村は 2 回目までになかなか足が合わない。向かえた 3 回目、なんとか 7m20 を跳び 8 位で決勝に駒を進めた。石田は 100m の疲れや怪我の影響があったのか予選敗退。悔しい結果となってしまった。決勝では西村が 7m 台のジャンプを連発するも記録更新とはならず、結局 8 位のままだった。渡辺も 3 回目以降は足が合わず最終的な順位は 4 位。惜しくも表彰台に上がることはできなかった。最終的に京大が走幅跳で稼いだ点数は 6 点。関西インカレ 1 部残留に大きく貢献した。京大としても例年になくレベルの高い選手を揃えることができた大会だった。(神先)

200m 準決勝 (2-4)

紀平 直人 (4) 1組 8着 22.48 +2.7

土屋 佑太 (4) 2組 8着 22.02 +1.0

1組に紀平、2組に土屋が出場した。1組

の紀平はこれまでの4本のレースの疲労の影響か、前半で大きく遅れ、後半も予選のように追い込むことができず8着。2組の土屋は怪我で足の状態が良くなく、痛み止めを使用しての出場となった。しかしその影響は大きく、走りにキレが見られず8着という結果になった。(安藤)

3000mSC 決勝

- 1位 乾 拓馬 (関西学院大4) 8.55.44
- 2位 宇野 幹也 (同志社大3) 8.58.25
- 3位 小嶋 一魁 (関西学院大2) 9.00.79
- 5位 岡野 颯斗 (京都大4) 9.17.34
- 8位 稲垣 達也 (京都大4) 9.25.30
- 15位 長谷川 大智 (京都大2) 9.56.86

男子3000mSCは2組タイムレース決勝で行われた。1組目において、組1着を目標とする稲垣(4)は、スタートから先頭を守り続け、ほぼ単独走の形で1着でゴール。タイムも9'25"のPBをマークして見事8位に入賞した。一方の長谷川(2)は集団から大きく離れて最後尾でスタート。落ちてきた選手を拾っていく堅実なレースを展開したものの、9'56"と物足りない結果となってしまった。2組目には優勝を狙う岡野(4)が出場。関学の選手らと先頭を走るも、ずるずる引き離され、後ろの選手にどんどん追いつかれてしまう。しかしラストはしっかり切り替えて後ろの選手を振り切り、意地で9'17"の5位にねじ込んだ。(高野寛)

女子800m 準決勝 (3-2+2)

岸本 絵理 2組8着 2.21.09

女子800m 準決勝には岸本が出場した。この日2本目のレースで疲労もあったかもしれないが、予選同様前半から攻めの走りを見せ、1周目は67秒で通過。しかし2周目に入ると徐々に先頭との差が開いてしまい、結果は組8着。しかし、この関西インカレの準決勝を走ったことは貴重な経験になったのではないだろうか。これからの岸本の走りにも期待したい。(山川)

対校得点 (四日目終了時点)

男子一部総合得点

- 1位 関西学院大学 140.5点
- 2位 立命館大学 94点
- 3位 京都産業大学 63点
- 9位 京都大学 28点

女子総合得点

- 1位 立命館大学 67点
- 2位 武庫川女子大学 49点
- 3位 大阪成蹊大学 38点
- 京都大学 0点

第五日目 5月15日(日)

女子10000mW 決勝

- 1位 内海 沙希(武庫川女大3) 52.08.12
- 2位 上野 萌々子(武庫川女大3) 52.15.56

10000mW 決勝

3位 杉山 智香(同志社大 1)52.31.83

4位 高野 寛子(京都大 2)53.21.33

女子 10000mW には高野が出場した。スタート直後から 1000m 付近まではレースはほぼ一つの集団で進行し、高野はその最後尾でその様子を窺うという展開になった。4 周目以降は先頭の 3 人が飛び出し徐々に集団がくずれ、3 人の集団を他の選手が追うという形が中盤まで続くが、高野は落ち着いて自分のペースで入賞ラインを維持しつつレースを進めた。その結果 2000m 付近では 9 位だったが前の選手がペースを落としてきたところを着実にかわしていき、8000m では 5 位まで順位を上げた。レース終盤にはさらに粘りを見せて 4 位でのフィニッシュとなった。目標に掲げていた表彰台には惜しくも届かなかったもののチームに 5 点をもたらした彼女の實力を示した。(福島)



後半で追い上げを見せた高野寛

1位 山西 利和(京都大 3) 40.54.49

NGR

2位 小脇 康平(龍谷大 3) 42.47.32

3位 森田 靖(龍谷大 1) 43.07.31

10位 秋本 啓太(京都大 2) 47.23.57

11位 大本 康平(京都大 3) 47.56.59

男子 10000mW には、山西、大本、秋本が出場した。山西は常に先頭を歩き、序盤は山西についていく選手もいたが徐々に離れはじめ、山西は単独トップになる。そのままトップでゴールして、昨年山西自身が樹立した大会記録を更新し、大会新で優勝。一人で 13 点もの得点を獲得した。秋本は集団の中でレースを進めるが、中盤で失速し集団に後れを取ってしまう。大本は、その集団より少し後ろの位置で終始レースを進めた。二人は入賞には届かず悔しい結果となった。今後の活躍に期待したい。(小柴)

あり、記録なしで競技終了。今回は疲労を払いのけての大ジャンプに期待する。(八木)

10000m 決勝

1位 寺西 雅俊(京都産業大 4)29.43.32

2位 野中 優志(関西学院大 3)29.51.48

3位 奥村 杏平(京都産業大 3)30.30.22

13位 下迫田 啓太(京都大 M1)32.01.78

尾崎 拓(京都大 3) DNS

男子 10000m には、下迫田啓太が出場した。なお尾崎は故障明けのため DNS。レースは序盤から京産大・寺西、関西学院大・野中が飛び出す。その後ろに 3 位から 5 位までが続いた。下迫田はやや離れて 6 位集団につく。下迫田が集団を引っ張る形が 5000m 過ぎまで続く。5000m の通過タイムは 15.37 とこれまでの下迫田からすれば遅めのタイムだが、入りの 2000m が速かったこと、先頭を走らされたことで消耗があったのだろう。後半では粘り切れず集団から離れて 13 位でのゴールとなった。来月に行われる伊勢予選では強い下迫田の走りと、それに続く選手の走りで伊勢への道を切り開くことを期待する。(渡邊)

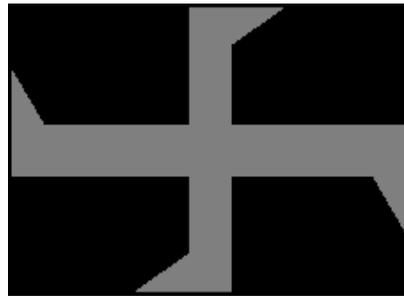
4.新入生名簿 (5月24日現在)

男子

名前	パート	種目	ベスト	出身高校
相澤 航	長	5000m	16'07	新潟
大下 拓真	長	5000m	17"12	豊田西
大橋 悟	投	円盤	43m76	新潟
大前 晃一	長	5000m	16'06"53	神戸
小原 幹太	短	400m	49"39	桐蔭
亀田 孝太郎	競歩	5000mW	22'41	北野
河合 裕太	中	1500m	4'18	浜松北
里美 音実	長	5000m		富岡東
潮崎 羽	長	5000m	17'07	天王寺
茂森 勇人	短	400m	50"13	彦根東
柴田 星斗	跳	走幅跳		海城
清水 秀広	長	5000m	16'51	小樽潮陵
田中 仁	長	5000m	15'34	岐阜
谷川 尚希	長	5000m	15'56"04	茨木
土屋 維智彦	中	800m	1'53"83	国立
西脇 友哉	短	400	51"84	洛星
糠谷 充孝	長	5000m	15'49"04	静岡
原田 麟太郎	長	5000m	15'08	三条
平島 敬也	混成	八種	4738点	筑紫丘
平中 章貴	中	1500m	4'13	京産大附属
松井 そら	混成	八種	5192点	堀川
三神 惇志	跳	三段跳	14m23	上野原
三田村 侑紀	長	5000m	16'13	岐阜
南井 航太	跳	走幅跳	6m40	大手前
本居 和弘	跳	走幅跳	6m42	鳳
吉川 広祐	ハードル	110mH	15"78	高岡

女子

名前	パート	種目	ベスト	出身高校
天野 くるみ	マネ			京都女子
後藤 加奈	短	400	60'27	大手前
恒石 侑子	マネ			土佐女子
西垣 里桜	マネ			膳所
橋本 怜奈	マネ			南丹
福井 優輝	マネ			清風南海



蒼穹ニュース 平成28年度 第2号
平成28年5月26日発行

発行所：京都大学体育会陸上競技部
編集者：土田侑秀・小柴鷹介・黒瀬慶（副務）
特別協力：阿邊啓明・宮垣寛之・山内美佳・秋本啓太（学連員）
清水良輔・尾崎拓（記録係）・宮坂優太（HP 係）
写真担当：五十嵐隆皓・川岸亮平・林玲美

陸上競技部 HP <http://www.athletics.kusu.kyoto-u.ac.jp/>
陸上競技部記録 HP <http://www.athletics.kusu.kyoto-u.ac.jp/kiroku/index.htm>
関西学連 HP <http://gold.jaic.org/jaic/icaak/index.htm>
メールアドレス roppe.0406@gmail.com（黒瀬）